



# 重要文化財 我妻家住宅

## 主屋ほか5棟保存修理（災害復旧）工事

- ・総事業費：93,980,000円
- ・対象建物：主屋、文庫蔵、前蔵、板蔵、附穀蔵、附表門
- ・工期：令和3年11月1日～令和7年6月30日

## 主屋ほか3棟保存修理工事

- ・総事業費：159,380,000円
- ・対象建物：主屋、文庫蔵、前蔵、板蔵
- ・工期：令和4年11月1日～令和7年7月30日

我妻家は、当初は鎌倉幕府の御家人で上野国吾妻本郷（現在の群馬県吾妻郡）の地頭職を務め、我妻姓を名乗ったことに始まります。その後陸奥国に引き移り、刈田郡二条館主宮内氏の家臣となって同郡深谷に暮らし、建長元年（1250・鎌倉中期）、同郡曲竹郷に知行を得て移り住みました。その後は地域を束ねる武士の一員として暮らしてきましたが、天正13年（1585・戦国末期）、伊達政宗によって知行を召上げられ帰農したと伝えられています。

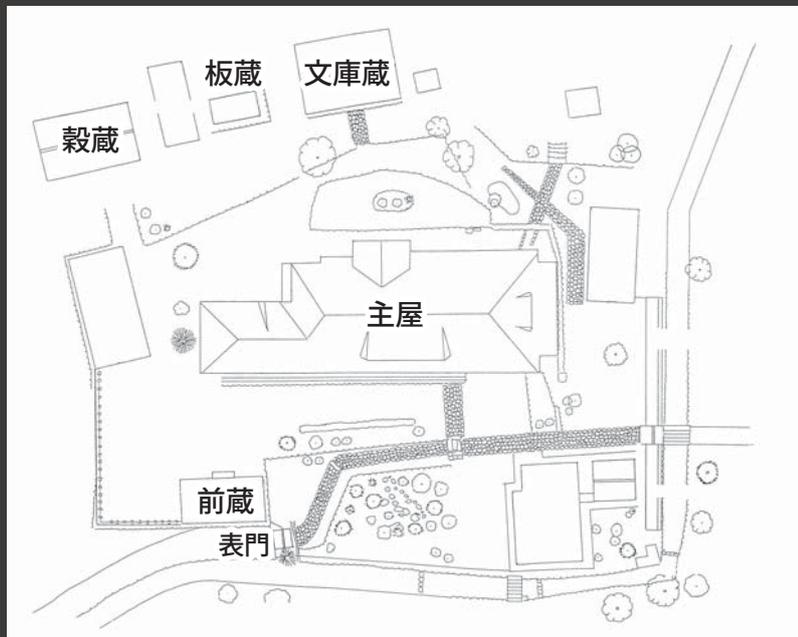
江戸時代には地域有数の豪農としてたびたび肝入（村の代表役）を務めるとともに、木綿や紅花など多くの品物を扱う豪商としてもその名を知られ、近隣の武家はもとより白石城主片倉家や藩主伊達家の資金を用立てするほどの貢献を果たしました。

令和6年度11月版



下部から順に葺き替えていく。

屋根葺き替え中の主屋



# 屋根葺替

一般に茅葺やこけら葺は 20～25 年毎に葺き替えが必要となる。この間、茅葺の場合は部分的に茅をつぎ足す差し茅を行うことで維持している。

屋根葺替を行う建物：主屋／茅葺 完了

板蔵・前蔵／板葺 完了

茅葺…ススキ・チガヤあるいはアシ（ヨシ）で葺くもの。我妻家住宅主屋ではヤマガヤ・ヨシが使われている。

こけら葺…板葺の一種で、厚さ 3～6 mm 程度の手割り板を 3 cm 前後の間隔で上下にずらして重ね、葺き上げるもの。木羽葺とも。我妻家住宅板蔵・前蔵ではクリ材が使われている。



こけら板を竹釘で止めていく。



屋根の厚みが経年で薄くなった。地震で壁に亀裂が入った。

主屋



板蔵  
地震で壁板がずれた。



前蔵  
地震で漆喰壁が落ちた。



地震で漆喰壁が落ちた。

文庫蔵



附穀蔵  
地震で土壁、腰壁板が落ちた。

工事する建物

# 左官工事

令和 3 年の福島県沖地震（蔵王町震度 6 強）により土壁が崩落。同じく震度 6 強を観測した令和 4 年の地震で荒壁（土壁の下地となる部分）にまで損傷が広がるなど、さらに被害が拡大した。

壁を塗りなおす建物：主屋／施工中

文庫蔵／施工中

前蔵・附穀蔵／完了



多種多様な鏝を駆使して壁を塗り上げる。



土壁の骨組みとなる竹木舞。



団子状にした荒壁土を木舞に押し付ける。



壁面をまっすぐに均すための斑直しの様子。